

東京各社撰抜新聞

波戸場小近く打寄る沖津白波たうさ山夜の深々と更けり
 午前二時おぼしき頃横濱の南京町百八十何番館の内入仕む
 洋妾吉野らく方へ押入し強盗の抜刀とせりめりし声と立ちと
 命がゆへと極り文句で威しつゝおらんと下女のおきんと
 縛り今一人の下女おきんと引せり起し金の在所を案内
 せよとせせらまら色一度の怖りせしもの中々性根の居つる女
 ハイと云つて走り案内をとるあつていへ入口小寝てわさる
 二足の洋犬の綱とれぬまと言さぬ戸を明すと二足の洋犬の
 直ち飛込め賊とせりより突然お向腹へ咬つてにぞ二人の
 賊へ逃まらぬうらうらとせし二足の洋犬の益々怒りて
 咬付めど賊の恐まて何事も取らぬ命多く逃失りる於此
 喜とび主人とおきんの縄を解無難に済しと祝を所へ犬の
 非常お吠るを聞付おらるの且那も尋ねまてありし
 次第を交しつゝおかとよかか氣轉を賞美わし金十圓を
 褒美にとりせ洋犬をますます大切りなすと
 是れ明治十二年二月中旬のうらうらとせりし事也



明治十二年
 五月五日
 御届
 北新堀町世ハシ
 西工三島雄之次
 新設町六ノチ
 出板山本平吉
 價銀六ノ